

「ステファノの弁明 7」

2016年04月06日

使徒言行録 7章 51節～53節。「かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。」

ステファノは、モーセの律法と魂の故郷として崇めていたエルサレム神殿をないがしろにし、神を冒瀆したと最高法院に訴えられた。大祭司から「訴えのとおりか」と認否を問われ、ステファノは弁明を始める。イスラエル人の父アブラハムから説き起こし、出エジプトを成し遂げ、律法を授与されたモーセの働きを力説し、神殿を建てたソロモンまでの歴史を綿々と語った。イスラエル人としてのアイデンティティを生きている者であることの証である。ステファノは、その歴史の中で、先祖たちは幾度も偶像礼拝の罪に陥った事例を述べた。そして、神は天地を創造された方であるから、人間の手で造った神殿にはお住まいにはならないと、神殿を偶像視するイスラエル人の過ちを指摘した。聞いていた人々は自分たちの誇りである神殿を軽視したことに怒りで燃え上がった。

法廷の怒りを真正面に受けながら、ステファノは恐れることなく最後の主張を展開する。まず「かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています」と攻撃的に語った。割礼を受けていることが、神の民イスラエル人であることの証左である。ステファノは、あなた方は心と耳に割礼を受けていない異邦人のように無知で、真理の聖霊に逆らっていると不信仰を激しい言葉でなじった。

「あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。」あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者は一人もいない。預言者たちは正しい方（メシア）が来られると語ったが、その預言者たちを殺した。そのように、先祖は神に逆らったが、あなた方も同じことをしている。そして「今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした」と続けた。預言者たちは正しい方（主イエス）が来られると語ったが、あなた方はその主イエスを裏切り、十字架で殺した。律法は天使たちを通し、仲介者の手を経て制定されたものであるが（ガラテヤ書 3章 19節）、あなた方は、それを守らなかった。ステファノは弁明の最後に、あなた方は預言者たちが預言した、神が遣わした正しい主イエス（メシア）を殺したと、齒に衣着せずに、イスラエル人の罪を糾弾した。主イエスの復活については言及していない。そこまで語るができなかったのであろう。

最高法院に集まった人々は、自分たちは神を信じ、正しい信仰生活を送っていると自負し、主イエスの死刑も当然としていた。それを、聖霊に逆らう無知と不信仰であると言われた訳であるから、怒り心頭に発したことは容易に想像できる。ステファノの殉教は必定のこととなった。彼の弁明には神のみを畏れる信仰からくる自由と大胆さが全面に溢れている。パウロの信仰と生き方を彷彿とさせる。